

注3

大学番号：私201

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人鈴鹿医療科学大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 法人事務局 企画広報課

職名・氏名 ヤマサキ オサム
山崎 領

電話番号 059-383-8991

（夜間） なし

F A X 059-383-9669

e-mail kikaku@suzuka-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

保健衛生学部

＜リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	11
3. 施設・設備の整備状況、経費	29
4. 既設大学等の状況	30
5. 教員組織の状況	32
6. 附帯事項等に対する履行状況等	61
7. その他全般的事項	62
別添1. 鈴鹿医療科学大学教育開発（FD推進）委員会規程	65

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人鈴鹿医療科学大学

(2) 大学名

鈴鹿医療科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

千代崎キャンパス（2年次以降及び本部）
〒510-0293
三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1

白子キャンパス（1年次）
〒510-8670
三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ ジュンイチ) 高木 純一 (令和元年6月19日)		就任(平成19年3月26日) 再任(平成23年5月30日) 就任(平成27年6月19日) 再任(令和元年6月19日) (2)
学長	(トヨダ ナガヤス) 豊田 長康 (平成31年4月1日)		就任(平成25年4月1日) 再任(平成27年4月1日) 再任(平成29年4月1日) 再任(平成31年4月1日)
学部長	(モリシタ ヨシタカ) 森下 芳孝 (平成30年4月1日)		
学科長等	(ハタナカ ヤスヒコ) 畠中 泰彦 (平成31年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健衛生学部 リハビリテーション学科 （理学療法専攻・作業療法専攻） 学士（理学療法） 学士（作業療法）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	4年	80人	-年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
A 入学定員	/						80人	人	80人	人	1.11 倍	-	第2志望、併願含む。			
							(-)	(-)	(-)	(-)				(-)	(-)	(-)
志願者数							417	(-)	(-)	(-)				(-)	525	(-)
受験者数							413	(-)	(-)	(-)				(-)	523	(-)
合格者数							209	(-)	(-)	(-)				(-)	205	(-)
B 入学者数							88	(-)	(-)	(-)				(-)	91	(-)
入学定員超過率 B/A							1.10		1.13							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	88 [—] (—)	— [—] (—)	94 [—] (3)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	78 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	88 [—] (—)	172 [—] (3)			

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況【リハビリテーション学科】

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	88人	6人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	6人	0人	進路変更(3名)、経済的困窮(1名)、 クラス内友人関係(1名)、学力不足(1名)
令和2年度	172人	0人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合計		6人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{88} = \boxed{6.81} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{172} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健衛生学部 リハビリテーション学科 (理学療法専攻) 学士(理学療法)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4 年	40 人	- 年次 人	160 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	/												40人	40人	1.09 倍	-	第2志望、併願含む。
志願者数													(-)	(-)			
受験者数													272	323			
合格者数													269	321			
B 入学者数													106	87			
入学定員超過率 B/A													45	43			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	45 [—] (—)	— [—] (—)	44 [—] (1)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	42 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	45 [—] (—)	— [—] (—)	86 [—] (1)

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況【リハビリテーション学科理学療法専攻】

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	45 人	2 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	2 人	0 人	進路変更(2)
令和2年度	86 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合 計		2 人		2 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{45} = \boxed{4.44} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{86} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください）。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
保健衛生学部 リハビリテーション学科 (作業療法学専攻) 学士(作業療法学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4 年	40 人	- 年次 人	160 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考					
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期								
A 入学定員	/						40人	人	40人	人	1.13 倍	-	第2志望、併願含む。					
							(-)	(-)	(-)	(-)				(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
志願者数							145	(-)	(-)	(-)				(-)	202	(-)	(-)	(-)
受験者数							144	(-)	(-)	(-)				(-)	202	(-)	(-)	(-)
合格者数							103	(-)	(-)	(-)				(-)	118	(-)	(-)	(-)
B 入学者数							43	(-)	(-)	(-)				(-)	48	(-)	(-)	(-)
入学定員超過率 B/A							1.07		1.20									

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	43 [—] (—)	— [—] (—)	50 [—] (2)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	36 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)			43 [—] (—)	86 [—] (2)	

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況【リハビリテーション学科作業療法学専攻】

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	43 人	5 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	5 人	0 人	進路変更(1)、経済的困窮(1)、友人関係(1) 学力不足(1)、精神的問題(1)
令和2年度	86 人	0 人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
合 計		5 人		5 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{43} = \boxed{11.62} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{86} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	いのちと医療の倫理学	1前	2									13
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2									13
	社会の中の人と医療	1後	2						1			12
	チーム医療Ⅰ	1後	1				1					11
	チーム医療Ⅱ	2集中	1				1					7
	医療人底力実践(基礎Ⅰ)	1前	1				2		1			31
	医療人底力実践(基礎Ⅱ)	1後	1						1			30
	医療人底力実践(展開)	3後	1				1					14
	医療人底力実践(応用)	4前	1				1					14
	キャリアプランニング	2前	1									3
	医学医療最近の進歩	1前	1									6
	食と健康	1前	1									7
	医療における安全と安心	1前	1									7
	東洋医学と統合医療	1前	1									1
	現代医療と看護・介護	1後	1									2
	薬の役割・薬のできるまで	1後	1									5
	情報時代と医療	1後	1									1
	医療とコミュニケーション	1後	1									3
	スポーツ健康科学	1前	2									1
	スポーツ科学実習	1後	1									2
哲学と死生観	1前	1									1	
病と文化	1前	1									1	
人類の疾病と医療	1後	1									1	
心と医療	1後	1									1	
法と医療	1後	1									1	
経済と医療	1前	1									1	
医療・福祉と財政	1前	1									1	
社会病理と人の病	1後	1									1	
英語Ⅰ	1前	1									1	
英語Ⅱ	1後	1									1	
医療英語の基礎A	2前	1									1	
医療英語の基礎B	2後	1									1	
英語コミュニケーションA	1前	1									1	
英語コミュニケーションB	1後	1									1	
中国語Ⅰ	1前	1				1						
中国語Ⅱ	1後	1				1						
環境科学	1前	1									5	
地球科学・宇宙科学	1前	1									1	
科学史・科学哲学	1後	1									1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	いのちの倫理学	1前	1									6
	医療の倫理学	1前	1									7
	医学の基礎入門	1前	1									7
	臨床医学への招待	1前	1									7
	医療・福祉の変遷と制度	1前	1									6
	人々の生活と医療	1前	1									7
	多職種連携の基礎	2後	1			1						14
	医療人底力実践Ⅰ(専科プログラム)	1前	1				2		2			2
	医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)	1前	1					2		3		32
	医療人底力実践Ⅲ(演習プログラム)	1後	1					2		2		29
	事例で学ぶ多職種連携	3後	1									17
	実践で学ぶ多職種連携	4前	1									17
	事例で学ぶ多職種連携(実習)	1後	1			1				1		11
	事例で学ぶ多職種連携(実習)	2前	1							1		15
	医学医療最近の進歩	1前	1				1					6
	食と健康	1前	1									8
	医療における安全と安心	1前	1									7
	東洋医学と統合医療	1前	1									1
	現代医療と看護・介護	1後	1									2
	薬の役割・薬のできるまで	1後	1									5
情報時代と医療	1後	1									1	
医療とコミュニケーション	1後	1									3	
スポーツと健康	1前	1									2	
スポーツの科学	1前	1									2	
スポーツ科学実習	1後	1									2	
哲学と死生観	1前	1									1	
病と文化	1前	1									1	
人類の疾病と医療	1後	1									1	
心と医療	1後	1									1	
法と医療	1後	1									1	
経済と医療	1前	1									1	
医療・福祉と財政	1前	1									1	
社会病理と人の病	1後	1									1	
英語Ⅰ	1前	1									1	
英語Ⅱ	1後	1									1	
医療英語の基礎A	2前	1									1	
医療英語の基礎B	2後	1									1	
英語コミュニケーションA	1前	1									1	
英語コミュニケーションB	1後	1									1	
中国語Ⅰ	1前	1					1					
中国語Ⅱ	1後	1					1					
環境科学	1前	1									3	
地球科学・宇宙科学	1前	1									1	
科学史・科学哲学	1後	1									1	

数学Ⅰ	1前	2								1
数学Ⅱ	1後	2								1
物理学Ⅰ	1前	2								1
物理学Ⅱ	1後	2								1
化学Ⅰ	1前	2								1
化学Ⅱ	1後	2								1
生物学Ⅰ	1前	2								1
生物学Ⅱ	1後	2								1
情報リテラシー	1前	2								1
小計(48科目)	-	13	48	0	0	3	0	2	0	124
専門基礎分野	解剖学	1前	2							2
	応用解剖学	1前	2							2
	解剖学実習	1後	1							2
	生理学	1前	2							1
	応用生理学	1後	2							1
	生理学実習	1後	1		1	3		2		
	病理学概論	2前	1							1
	臨床心理学	2前	1							1
	発達学	2前	2					1		
	リハビリテーション概論	1後	1		2	3		4		
	リハビリテーション医学	1後	1		1					
	内科学総論	2前	1		1					2
	内科学各論	2後	1		1					2
	整形外科総論	2前	1		1					
	整形外科各論	2後	1		1					
	神経内科学総論	2前	1							1
	神経内科学各論	2後	1							1
	小児科学	2後	1							1
	一般臨床医学	3前	1		1					
	精神医学	4後	1							1
医学英語	2後	1							1	
リハビリテーション工学	4後	2							2	
救急医学概論	4後	2							1	
臨床栄養学	2前	2							1	
食品学	4前	2							2	
薬理学	4後	2							1	
生化学	2前	2							1	
小計(27科目)	-	30	8	0	4	3	0	3	0	21

数学Ⅰ	1前	2								1
数学Ⅱ	1後	2								1
物理学Ⅰ	1前	2								1
物理学Ⅱ	1後	2								1
化学Ⅰ	1前	2								1
化学Ⅱ	1後	2								1
生物学Ⅰ	1前	2								1
生物学Ⅱ	1後	2								1
情報リテラシー	1前	2								1
小計(53科目)	-	16	46	0	2	3	0	2	0	135
専門基礎分野	解剖学	1前	2							1
	応用解剖学	1前	2							1
	解剖学実習	1後	1			1		2		1
	生理学	1前	2							1
	応用生理学	1後	2							1
	生理学実習	1後	1			1		2	1	2
	病理学概論	2前	1							1
	臨床心理学	2前	1							1
	発達学	2前	2						1	1
	リハビリテーション概論	1後	1			2		2	3	2
	リハビリテーション医学	1後	1							1
	内科学総論	2前	1							3
	内科学各論	2後	1							2
	整形外科総論	2前	1							1
	整形外科各論	2後	1							1
	神経内科学総論	2前	1							1
	神経内科学各論	2後	1							1
	小児科学	2後	1							1
	一般臨床医学	3前	1							1
	精神医学	4後	1							1
医学英語	2後	1							1	
リハビリテーション工学	4後	2							2	
救急医学概論	4後	2							1	
画像評価学	4後	1			2		1		3	
臨床栄養学	2前	2							1	
薬理学	4後	2							2	
小計(26科目)	-	35	0	0	2	2	0	3	0	21

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野	いのちと医療の倫理学	1前	2								15
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2								16
	社会の中の人と医療	1後	2								15
	チーム医療Ⅰ	1後	1			1					11
	チーム医療Ⅱ	2集中		1							8
	医療人底力実践（基礎Ⅰ）	1前	1				1		3		30
	医療人底力実践（基礎Ⅱ）	1後	1				2		3		31
	医療人底力実践（展開）	3後		1							14
	医療人底力実践（応用）	4前		1							14
	キャリアプランニング	2前		1							3
	医学医療最近の進歩	1前		1							7
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							2
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							3
	スポーツ健康科学	1前	2								2
	スポーツ科学実習	1後		1							3
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							3
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前		2							1
小計（48科目）	-		13	48	0	1	2	0	4	0	132

専門基礎科目	解剖学	1前	2								2
	応用解剖学	1前	2								2
	解剖学実習	1後	1								2
	生理学	1前	2								1
	応用生理学	1後	2								1
	生理学実習	1後	1			2					4
	病理学概論	2前	1								1
	臨床心理学	2前	1								1
	発達学	2前	2								1
	リハビリテーション概論	1後	1		1	2		2			4
	リハビリテーション医学	1後	1								1
	内科学総論	2前	1								3
	内科学各論	2後	1								3
	整形外科総論	2前	1								1
	整形外科各論	2後	1								1
	神経内科学総論	2前	1								1
	神経内科学各論	2後	1								1
	小児科学	2後	1								1
	一般臨床医学	3前	1								1
	精神医学	4後	1								1
	医学英語	2後	1								1
	リハビリテーション工学	4後	2								2
	救急医学概論	4後	2								1
	画像評価学	4後	1		1	1					4
	臨床栄養学	2前	2								1
	薬理学	4後	2								1
小計 (26科目)	-	35	0	0	1	2	0	2	0	24	
専門分野	基礎運動学	1後	2								1
	応用運動学	2前	2			1					
	運動学実習	2後	1			1					1
	臨床運動学	4後	1		1						
	運動器系評価学	2前	2								2
	神経系評価学	2後	2								1
	理学療法評価学実習	3前	1								2
	臨床評価法実習	3前	1								4
	物理療法学	2後	2				1				
	物理療法学実習	3前	1				1				
	運動療法学総論	2前	2								1
	運動器系理学療法学	3前	1		1						
	運動器系理学療法学実習	3後	1		1						
	背髄損傷理学療法学	2後	1								1
	神経系理学療法学	3前	1			1					
	神経系理学療法学実習	3後	1			1					
	神経筋系理学療法学実習	3前	1			1					
	発達障害系理学療法学	2後	1								1
	発達障害系理学療法学実習	3前	1								1
	循環呼吸系理学療法学	2後	2								1
	循環呼吸系理学療法学実習	3後	1								1
	生活技術学	2後	2					2			
	生活技術学実習	3前	1					2			
	義肢装具学	2前	1		1						
	義肢装具学実習	3前	1		1	1					
	理学療法特論	4後	1		1	2		2			6
スポーツ医学	3後	2		1	1					3	
理学療法技術論演習	3後	1		1	2		1			4	
ロボットリハビリテーション演習	3後	1		1							
理学療法管理学	4後	1					1				
生活環境学	3後	2					1				
老年期障害学演習	4後	1								1	
地域理学療法学	3後	1					1				

初期臨床実習	2後	2			1	2		2		4
臨床評価実習	3前	3			1	2		2		4
総合臨床実習	4前	15			1	2		2		4
卒業研究の基礎	3後	2			1	2		2		2
卒業研究	4後	1			1	2		2		4
小計（38科目）	-	66	0	0	1	2	0	2	0	8
合計（112科目）	-	114	48	0	1	3	0	5	0	147
卒業要件及び履修方法										
必修科目114単位、基礎分野の選択科目から16単位、合わせて130単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年48単位、2年40単位、3年30単位、4年30単位（年間））										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・指導体制見直しにより、「チーム医療Ⅰ」の専任教員の配置を「教授0」「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」の専任教員の配置を「准教授2」「助教1」から「准教授1」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」の専任教員の配置を「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・新指定規則において「画像評価学」を必修化するように指示されているため、画像評価学を新設。
- ・新指定規則において栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化した為、「臨床栄養学」および「薬理学」を「選択」から「必修」に変更。
- ・「神経系理学療法学演習」の中で行っていた「画像評価」等の内容を整理したことにより、授業科目の名称を「神経系理学療法学演習」から「神経系理学療法学」に変更。
- ・新指定規則において「理学療法管理学」が追加され、必修科目となった為、授業科目に「理学療法管理学」を新設。
- ・指定規則の改正（「地域理学療法学」の演習・実習を臨床実習に移行し、1単位減とする）に適合させる為、「地域理学療法学」を「2単位」から「1単位」に変更。
- ・指定規則の改正（「地域理学療法学」の演習・実習を臨床実習に移行する。地域包括ケアシステム強化に資する人材育成のため2単位追加する。）に適合させる為、「初期臨床実習」を「1単位」から「2単位」に変更。
- ・臨床実習の充実の為、「総合臨床実習」を「14単位」から「15単位」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「高橋猛」「浅田啓嗣」「多田智美」「中俣孝昭」については、令和元年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼担」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

【令和2年度】

- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「いのちと医療の倫理学」を「いのちの倫理学」と「医療の倫理学」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医学を学ぶための基礎知識」を「医学の基礎入門」と「臨床医学への招待」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「社会の中の人と医療」を「医療・福祉の変遷と制度」と「人々の生活と医療」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「チーム医療Ⅰ」と「キャリアプランニング」を「多職種連携の基礎」に統合。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「多職種連携の基礎」の専任教員の配置を「教授1」とした。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」を「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」と「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」に分割し、「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」の専任教員の配置を、「教授2」「准教授2」「助教3」、「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」の専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」を「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」に名称変更し、専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（展開）」を「事例で学ぶ多職種連携」に名称変更および、専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（応用）」を「実践で学ぶ多職種連携」に名称変更および、専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）」を新規科目として追加。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）」を新規科目として追加。
- ・指導体制見直しにより、「医学医療最近の進歩」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「スポーツ健康科学」を「スポーツと健康」と「スポーツの科学」に分割。
- ・情報活用能力を養成する教育を充実するため、「情報リテラシー」を選択科目から必修科目に変更。
- ・指導体制見直しにより、「解剖学実習」の専任教員の配置を「准教授0」「助教0」から「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「准教授3」「助教2」から「准教授2」「助教1」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション概論」の専任教員の配置を「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション医学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科科学総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科科学各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「運動器系評価学」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「准教授0」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「臨床評価法実習」の専任教員の配置を「准教授1」「助教2」から「准教授0」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「理学療法特論」の専任教員の配置を「教授4」「准教授3」「助教4」から「教授2」「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「スポーツ医学」の専任教員の配置を「教授3」から「教授1」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「理学療法技術論演習」の専任教員の配置を「准教授3」「助教3」から「准教授2」「助教2」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「初期臨床実習」の専任教員の配置を、「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制の見直しにより、「総合臨床実習」の専任教員の配置を、「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究の基礎」の専任教員の配置を「准教授3」「助教1」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「卒業研究」の専任教員の配置を「准教授3」「助教4」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「浅田啓嗣」「多田智美」については、令和2年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼担」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

- (注) ・ 2 (1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容 (配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など) を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度 (平成 3 0 年度開設であれば平成 2 9 年度) の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
69 科目	43 科目	0 科目	112 科目	79 科目 [10]	38 科目 [△ 5]	0 科目 []	117 科目 [5]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目（該当なし）

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	食品学	2	4	専門	選択	新指定規則において、栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「食品学」を削除。
2	生化学	2	2	専門	選択	新指定規則において、栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「生化学」を削除。
3	チーム医療Ⅱ	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「チーム医療Ⅱ」を削除。
4	キャリアプランニング	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「キャリアプランニング」を「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」に吸収。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

入学前の変更となるため、影響なし。(1) (2)
 新カリキュラムの科目を履修することで読替えるものとする(3) (4)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{4}{112} = \boxed{3.57}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<保健衛生学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	いのちと医療の倫理学	1前	2									13
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2									13
	社会の中の人と医療	1後	2						1			12
	チーム医療Ⅰ	1後	1				1					11
	チーム医療Ⅱ	2集中	1				1					7
	医療人底力実践(基礎Ⅰ)	1前	1				2		1			31
	医療人底力実践(基礎Ⅱ)	1後	1						1			30
	医療人底力実践(展開)	3後	1				1					14
	医療人底力実践(応用)	4前	1				1					14
	キャリアプランニング	2前	1									3
	医学医療最近の進歩	1前	1									6
	食と健康	1前	1									7
	医療における安全と安心	1前	1									7
	東洋医学と統合医療	1前	1									1
	現代医療と看護・介護	1後	1									2
	薬の役割・薬のできるまで	1後	1									5
	情報時代と医療	1後	1									1
	医療とコミュニケーション	1後	1									3
	スポーツ健康科学	1前	2									1
	スポーツ科学実習	1後	1									2
	哲学と死生観	1前	1									1
	病と文化	1前	1									1
	人類の疾病と医療	1後	1									1
	心と医療	1後	1									1
	法と医療	1後	1									1
	経済と医療	1前	1									1
	医療・福祉と財政	1前	1									1
	社会病理と人の病	1後	1									1
	英語Ⅰ	1前	1									1
	英語Ⅱ	1後	1									1
医療英語の基礎A	2前	1									1	
医療英語の基礎B	2後	1									1	
英語コミュニケーションA	1前	1									1	
英語コミュニケーションB	1後	1									1	
中国語Ⅰ	1前	1				1						
中国語Ⅱ	1後	1				1						
環境科学	1前	1									5	
地球科学・宇宙科学	1前	1									1	
科学史・科学哲学	1後	1									1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎分野	いのちの倫理学	1前	1									6
	医療の倫理学	1前	1									7
	医学の基礎入門	1前	1									7
	臨床医学への招待	1前	1									7
	医療・福祉の発展と制度	1前	1									6
	人々の生活と医療	1前	1									7
	多職種連携の基礎	2後	1			1						14
	医療人底力実践1(中級プログラム)	1前	1			1	2		1			
	医療人底力実践2(中級プログラム)	1前	1				2		3			33
	医療人底力実践3(中級プログラム)	1後	1						2			31
	事例で学ぶ多職種連携	3後	1									17
	実践で学ぶ多職種連携	4前	1									17
	医療現場で学ぶ多職種連携(基礎)	1後	1			1			1			11
	医療現場で学ぶ多職種連携(応用)	2前	1						1			15
	医学医療最近の進歩	1前	1			1						6
	食と健康	1前	1									8
	医療における安全と安心	1前	1									7
	東洋医学と統合医療	1前	1									1
	現代医療と看護・介護	1後	1									2
	薬の役割・薬のできるまで	1後	1									5
	情報時代と医療	1後	1									1
	医療とコミュニケーション	1後	1									3
	スポーツと健康	1前	1									2
	スポーツの科学	1前	1									2
	スポーツ科学実習	1後	1									2
	哲学と死生観	1前	1									1
	病と文化	1前	1									1
	人類の疾病と医療	1後	1									1
	心と医療	1後	1									1
	法と医療	1後	1									1
経済と医療	1前	1									1	
医療・福祉と財政	1前	1									1	
社会病理と人の病	1後	1									1	
英語Ⅰ	1前	1									1	
英語Ⅱ	1後	1									1	
医療英語の基礎A	2前	1									1	
医療英語の基礎B	2後	1									1	
英語コミュニケーションA	1前	1									1	
英語コミュニケーションB	1後	1									1	
中国語Ⅰ	1前	1			1							
中国語Ⅱ	1後	1			1							
環境科学	1前	1									3	
地球科学・宇宙科学	1前	1									1	
科学史・科学哲学	1後	1									1	

数学Ⅰ	1前	2								1
数学Ⅱ	1後	2								1
物理学Ⅰ	1前	2								1
物理学Ⅱ	1後	2								1
化学Ⅰ	1前	2								1
化学Ⅱ	1後	2								1
生物学Ⅰ	1前	2								1
生物学Ⅱ	1後	2								1
情報リテラシー	1前	2								1
小計(48科目)	-	13	48	0	0	3	0	2	0	124
解剖学	1前	2								2
応用解剖学	1前	2								2
解剖学実習	1後	1								2
生理学	1前	2								1
応用生理学	1後	2								1
生理学実習	1後	1			1		1			
病理学概論	2前	1								1
臨床心理学	2前	1								1
発達学	2前	2						1		
リハビリテーション概論	1後	1		1	2		4			
リハビリテーション医学	1後	1		1						
内科学総論	2前	1		1						2
内科学各論	2後	1		1						2
整形外科学総論	2前	1		1						
整形外科学各論	2後	1		1						
神経内科学総論	2前	1								1
神経内科学各論	2後	1								1
小児科学	2後	1								1
一般臨床医学	2前	1		1						
精神医学	2後	1								1
医学英語	2後	1								1
リハビリテーション工学	4後	2								2
ロボットリハビリテーション演習	3後	1		1						
救急医学概論	4後	2								1
臨床栄養学	2前		2							1
食品学	4前		2							2
薬理学	4後		2							1
生化学	2前		2							1
小計(28科目)	-	31	8	0	4	2	0	5	0	21

専門基礎分野

数学Ⅰ	1前	2								1
数学Ⅱ	1後	2								1
物理学Ⅰ	1前	2								1
物理学Ⅱ	1後	2								1
化学Ⅰ	1前	2								1
化学Ⅱ	1後	2								1
生物学Ⅰ	1前	2								1
生物学Ⅱ	1後	2								1
情報リテラシー	1前	2								1
小計(53科目)	-	16	46	0	1	3	0	4	0	136
解剖学	1前	2								1
応用解剖学	1前	2								1
解剖学実習	1後	1				1		2		1
生理学	1前	2								1
応用生理学	1後	2								1
生理学実習	1後	1						2		
病理学概論	2前	1								1
臨床心理学	2前	1								1
発達学	2前	2						1		1
リハビリテーション概論	1後	1		1	2		4			
リハビリテーション医学	1後	1								1
内科学総論	2前	1								2
内科学各論	2後	1								1
整形外科学総論	2前	1								1
整形外科学各論	2後	1								1
神経内科学総論	2前	1								1
神経内科学各論	2後	1								1
小児科学	2後	1								1
一般臨床医学	2前	1								1
精神医学	2後	1								1
医学英語	2後	1								1
リハビリテーション工学	4後	2								2
ロボットリハビリテーション演習	3後	1				1				
救急医学概論	4後	2								1
画像評価学	4後	1						3		2
臨床栄養学	2前		2							1
食品学	4前		2							
薬理学	4後		2							1
小計(27科目)	-	36	0	0	1	2	0	4	0	18

専門基礎分野

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎分野	いのちと医療の倫理学	1前	2								15
	医学を学ぶための基礎知識	1前	2								16
	社会の中の人と医療	1後	2								15
	チーム医療Ⅰ	1後	1			1					11
	チーム医療Ⅱ	2集中		1							8
	医療人底力実践(基礎Ⅰ)	1前	1				1		3		30
	医療人底力実践(基礎Ⅱ)	1後	1				2		3		31
	医療人底力実践(展開)	3後		1							14
	医療人底力実践(応用)	4前		1							14
	キャリアプランニング	2前		1							3
	医学医療最近の進歩	1前		1							7
	食と健康	1前		1							8
	医療における安全と安心	1前		1							7
	東洋医学と統合医療	1前		1							1
	現代医療と看護・介護	1後		1							2
	薬の役割・薬のできるまで	1後		1							5
	情報時代と医療	1後		1							1
	医療とコミュニケーション	1後		1							3
	スポーツ健康科学	1前	2								2
	スポーツ科学実習	1後		1							3
	哲学と死生観	1前		1							1
	病と文化	1前		1							1
	人類の疾病と医療	1後		1							1
	心と医療	1後		1							1
	法と医療	1後		1							1
	経済と医療	1前		1							1
	医療・福祉と財政	1前		1							1
	社会病理と人の病	1後		1							1
	英語Ⅰ	1前	1								1
	英語Ⅱ	1後	1								1
	医療英語の基礎A	2前		1							1
	医療英語の基礎B	2後		1							1
	英語コミュニケーションA	1前		1							1
	英語コミュニケーションB	1後		1							1
	中国語Ⅰ	1前		1			1				
	中国語Ⅱ	1後		1			1				
	環境科学	1前		1							3
	地球科学・宇宙科学	1前		1							1
	科学史・科学哲学	1後		1							1
	数学Ⅰ	1前		2							1
	数学Ⅱ	1後		2							1
	物理学Ⅰ	1前		2							1
	物理学Ⅱ	1後		2							1
	化学Ⅰ	1前		2							1
	化学Ⅱ	1後		2							1
	生物学Ⅰ	1前		2							1
	生物学Ⅱ	1後		2							1
	情報リテラシー	1前		2							1
小計(48科目)	-		13	48	0	1	2	0	4	0	132

専門基礎科目	解剖学	1前	2								2
	応用解剖学	1前	2								2
	解剖学実習	1後	1								2
	生理学	1前	2								1
	応用生理学	1後	2								1
	生理学実習	1後	1					2			
	病理学概論	2前	1								1
	臨床心理学	2前	1								1
	発達学	2前	2								1
	リハビリテーション概論	1後	1		1	2		4			
	リハビリテーション医学	1後	1								1
	内科学総論	2前	1								3
	内科学各論	2後	1								2
	整形外科総論	2前	1								1
	整形外科各論	2後	1								1
	神経内科学総論	2前	1								1
	神経内科学各論	2後	1								1
	小児科学	2後	1								1
	一般臨床医学	2前	1								1
	精神医学	2後	1								1
	医学英語	2後	1								1
	リハビリテーション工学	4後	2								2
	ロボットリハビリテーション演習	3後	1		1						
	救急医学概論	4後	2								1
	画像評価学	4後	1					3			2
	臨床栄養学	2前	2								1
	薬理学	4後	2								1
小計 (27科目)	-	36	0	0	2	2	0	4	0	21	
専門分野	運動学	1後	1			2					
	運動学実習	2後	1			2					
	作業療法概論	2前	1		1						
	基礎作業学	2前	1			1		1			
	基礎作業学実習	2後	1			1		1			
	作業療法研究法	2後	1		1	2		4			
	検査測定実習	2後	1			1		3			
	身体障害評価学	3前	1			1		1			
	精神障害評価学	2後	1		1						
	発達障害評価学	3前	1					1			
	老年期障害評価学	3前	1			1					
	身体障害作業治療学Ⅰ	2前	1			1					
	身体障害作業治療学Ⅰ実習	3前	1			1		1			
	身体障害作業治療学Ⅱ	3前	1			1		1			
	身体障害作業治療学Ⅱ実習	3前	1			1		1			
	精神障害作業治療学	3前	1		1						
	精神障害作業治療学実習	3後	1		1						
	発達障害作業治療学	2後	1					1			
	発達障害作業治療学実習	3前	1					1			
	老年期障害作業治療学	3前	1			1					
	老年期障害作業治療学実習	3前	1			1		1			
	日常生活活動支援学	2後	1			1					
	日常生活活動支援学実習	3前	1			1		1			
	高次脳機能障害作業治療学	2後	1			1					
	高次脳機能障害作業治療学実習	3後	1			1		1			
	義肢装具作業治療学	2後	1			1					
	義肢装具作業治療学実習	3前	1			1					
	職業関連作業治療学	2前	1					1			
	ハンドセラピー学	4後	1			1					
	感覚統合療法学	4後	1					1			
急性期作業治療学	3後	1		1	1						
総合演習	4後	1		1							
職業倫理学	4後	1		1				1			
職場管理学	4後	1									

地域作業療法学	2後	1				1		1		
地域作業療法学実習	3前	1				1		1		
生活環境論	3後	1				1		1		
訪問作業療法学	4後	1				1				
臨床実習Ⅰ	2後	2			1	2		4		
臨床実習Ⅱ	3後	4			1	2		4		
臨床実習Ⅲ	4前	8			1	2		4		
臨床実習Ⅳ	4前	8			1	2		4		
卒業研究	4後	1			1	2		4		
小計（43科目）	-	61	0	0	1	2	0	4	0	0
合計（118科目）	-	110	48	0	2	4	0	5	0	143
卒業要件及び履修方法										
必修科目110単位、基礎分野の選択科目から16単位、合わせて126単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：1年48単位、2年40単位、3年30単位、4年30単位（年間））										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。
（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・指導体制見直しにより、「チーム医療Ⅰ」の専任教員の配置を「教授0」「准教授1」から「教授1」「准教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」の専任教員の配置を「准教授2」「助教1」から「准教授1」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」の専任教員の配置を「准教授0」「助教1」から「准教授2」「助教3」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「助教2」に変更。
- ・新指定規則において「画像評価学」を必修化するよう指示されている為、「画像評価学」を新設。
- ・新指定規則において栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化した為、「臨床栄養学」および「薬理学」を「選択」から「必修」に変更。
- ・教育効果の向上の為、「作業療法概論」を「リハビリテーション概論」の学習後に開講させる為、開講学年を「1年」から「2年」に変更。
- ・教育効果の向上の為、「身体障害作業治療学Ⅱ」を「身体障害作業治療学Ⅰ」の学習後に開講させる為、学年を「2年」から「3年」に変更。
- ・一般的に使用されている為、「高次機能障害作業治療学」を「高次脳機能障害作業治療学」に変更。
- ・一般的に使用されている為、「高次機能障害作業治療学実習」を「高次脳機能障害作業治療学実習」に変更。
- ・総合的な科目名に変更する為、「緩和療法学」を「総合演習」に変更。
- ・新指定規則において「作業療法管理学」が追加され、「職業倫理学」が必修科目となった為、授業科目に「職業倫理学」を新設。
- ・新指定規則において「作業療法管理学」が追加され、「職場管理学」が必修科目となった為、授業科目に「職場管理学」を新設。
- ・新指定規則の22単位に合わせる為、「臨床実習Ⅰ」の単位数を「3単位」から「2単位」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「高橋猛」「浅田啓嗣」「多田智美」「中俣孝昭」については、令和元年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼任」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

【令和2年度】

- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「いのちと医療の倫理学」を「いのちの倫理学」と「医療の倫理学」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医学を学ぶための基礎知識」を「医学の基礎入門」と「臨床医学への招待」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「社会の中の人と医療」を「医療・福祉の変遷と制度」と「人々の生活と医療」に分割。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「チーム医療Ⅰ」と「キャリアプランニング」を「多職種連携の基礎」に統合。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「多職種連携の基礎」の専任教員の配置を「教授1」とした。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅰ）」を「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」と「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」に分割し、「医療人底力実践Ⅰ（学科プログラム）」の専任教員の配置を、「准教授2」「助教3」とし、「医療人底力実践Ⅱ（体験プログラム）」の専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授3」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（基礎Ⅱ）」を「医療人底力実践Ⅲ（発展プログラム）」に名称変更し、専任教員の配置を、「准教授0」「助教1」から「准教授3」「助教2」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（展開）」を「事例で学ぶ多職種連携」に名称変更し、専任教員の配置を、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「医療人底力実践（応用）」を「実践で学ぶ多職種連携」に名称変更し、専任教員の配置を、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（基礎）」を新規科目として追加。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「慢性疼痛で学ぶチーム医療（実践）」を新規科目として追加。
- ・指導体制見直しにより、「医学医療最近の進歩」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・基礎分野の全学的な教育課程の見直しにより、「スポーツ健康科学」を「スポーツと健康」と「スポーツの科学」に分割。
- ・情報活用能力を養成する教育を充実するため、「情報リテラシー」を選択科目から必修科目に変更。
- ・指導体制見直しにより、「解剖学実習」の専任教員の配置を「准教授0」「助教0」から「准教授1」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「生理学実習」の専任教員の配置を「准教授1」「助教1」から「准教授0」「助教2」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「リハビリテーション医学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「内科学各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科学総論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「整形外科学各論」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「一般臨床医学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・指導体制見直しにより、「老年期障害作業治療学」の専任教員の配置を「准教授1」「助教0」から「准教授0」「助教1」に変更。
- ・世界作業療法士連盟（WFOT）の認可を取得するため「臨床実習Ⅱ」の単位数を「4単位」から「5単位」に、「臨床実習Ⅲ」の単位数を「8単位」から「9単位」に、「臨床実習Ⅳ」の単位数を「8単位」から「9単位」に変更。
- ・「山門徹」「二井英二」「浅田啓嗣」「多田智美」については、令和2年度において、理学療法学科所属につき「専任」ではなく「兼任」としてカウントしている。なお、順次リハビリテーション学科に異動予定（設置時からの計画通り）。

(注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
76 科目	43 科目	0 科目	119 科目	85 科目 [9]	38 科目 [Δ5]	0 科目 []	123 科目 [4]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。 (記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	食品学	2	4	専門	選択	新指定規則において栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「食品学」を削除。
2	生化学	2	4	専門	選択	新指定規則において栄養、薬理、画像、救急救命、予防等の科目が必修化したのに伴い、選択科目として「生化学」を削除。
3	作業療法評価法	1	2	専門	必修	新指定規則に作業療法評価学の単位数が、1単位少なくなったので、この科目を削除。
4	作業療法プログラム論	1	3	専門	必修	新指定規則に作業療法治療学の単位数が、1単位少なくなったので、この科目を削除。
5	チーム医療Ⅱ	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「チーム医療Ⅱ」を削除。
6	キャリアプランニング	1	2	一般	選択	全学的な基礎分野の見直しにより、「キャリアプランニング」を「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」に吸収。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

入学前の変更となるため、影響なし。(1) (2) (3) (4)
新カリキュラムの科目を履修することで読替えるものとする (5) (6)

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{6}{119} = \boxed{5.04} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	152,229.94㎡	0㎡	0㎡	152,229.94㎡			
	運動場用地	21,630㎡	0㎡	0㎡	21,630㎡			
	小 計	173,859.94㎡	0㎡	0㎡	173,859.94㎡			
	そ の 他	21,344.54㎡	0㎡	0㎡	21,344.54㎡			
	合 計	195,204.48㎡	0㎡	0㎡	195,204.48㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	入力ミス (元)		
		64,697.95㎡ 64,696.89㎡ (64,697.95㎡) -(64,696.89㎡)-	0㎡	0㎡	64,697.95㎡ 64,696.89㎡ (64,697.95㎡) -(64,696.89㎡)-			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	令和2年度カリキュラム変更により使用教室追加 (2)		
	23室 22室	9室	10室	1室 (補助職員 0人)	7室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	保健衛生学部 リハビリテーション学科			19 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	平成31年4月 受入数増のため (元) 受入数増のため (2) 追加購入のため (2)
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	保健衛生学部リ ハビリテーション 学科	3,741 [314] 3,615 [311] (3,710 [311]) -(3,615 [311])-	25 [1] (25 [1])	8 [8] (8 [8])	47 (47)	2,348 2,335 (2,348) -(2,335)-	43 39 (43) (39)-	
計	3,741 [314] 3,615 [311] (3,710 [311]) -(3,615 [311])-	25 [1] (25 [1])	8 [8] (8 [8])	47 (47)	2,348 2,335 (2,348) -(2,335)-	43 39 (43) (39)-		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		新学科設置に伴い棚を増やしたため (元)		
	3,872.89㎡		514	193,300 185,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,888.73㎡		テニスコート5面		卓球ルーム			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	雑誌を含んだため (元) 購入時に精査したため (2) 設備充実のため (元) 開設前年度に購入したため (2)
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	5,530千円 4,455千円	1,673千円 2,000千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	117,491千円 105,001千円	242千円 10,000千円	10,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,700千円 1,600千円	1,600千円 1,500千円	1,600千円 1,500千円	1,600千円 1,500千円	- 千円	- 千円	令和2年度入学者より 全学科で学費を変更したため (2)
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金, 資産運用収入, 雑収入 等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鈴鹿医療科学大学										備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度			
保健衛生学部	4	360	-	1440	-	1.08	1.11	平成31	平成3	(全学部全学科の1年次) 三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3		
放射線技術科学科	4	100	-	400	学士(診療放射線学)	1.19	1.19	-	平成3		(2年次以降) 三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1	
医療栄養学科	4	90	-	360	-	1.12	1.06	-	平成3		同上	
管理栄養学専攻	4	40	-	-	学士(栄養学)	1.14	1.05	-	平成23		同上	
臨床検査学専攻	4	50	-	-	学士(臨床検査学)	1.11	1.08	-	平成23		同上	平成30年度定員変更(10)
理学療法学科	4	-	-	-	学士(理学療法学)	-	-	-	平成14		同上	平成31年度学生募集停止
リハビリテーション学科	4	80	-	320	-	1.11	1.13	平成31	平成31		同上	平成31年度設置
理学療法学専攻	4	40	-	-	学士(理学療法学)	1.09	1.07	平成31	平成31		同上	
作業療法学専攻	4	40	-	-	学士(作業療法学)	1.13	1.20	平成31	平成31		同上	
医療福祉学科	4	60	-	240	-	0.90	0.96	-	平成16		同上	
医療福祉学専攻	4	30	-	-	学士(医療福祉学)	0.77	0.60	-	平成25		同上	
臨床心理学専攻	4	30	-	-	学士(心理学)	1.04	1.33	-	平成25		同上	
鍼灸サイエンス学科	4	30	-	120	学士(鍼灸学)	0.90	1.26	-	平成25		同上	
医用工学部	4	70	-	280	-	1.12	0.98	-	平成3			
臨床工学科	4	40	-	160	学士(臨床工学)	1.21	1.05	-	平成3		同上	
医用情報工学科	4	30	-	120	学士(医療情報工学)	1.00	0.90	-	平成3		同上	
薬学部	6	100	-	600	-	1.03	0.90	-	平成20			
薬学科	6	100	-	600	学士(薬学)	1.03	0.90	-	平成20	三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3		
看護学部	4	100	-	400	-	1.09	1.06	令和2	平成26			
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.09	1.06	令和2	平成26	同上	定員変更(20)	
大学全体		630	-	2720	-	-	1.05	-	-	-	収容定員は全学部全学科、令和2年度の入学定員×修業年限の数値。	

大学の名称		鈴鹿医療科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
医療科学研究科	-	35	-	75				-			
医療科学専攻(修士課程)	2	30	-	60	修士(医療科学)	1.01	0.96	-	平成22	三重県鈴鹿市岸岡町1001番地1	
医療科学専攻(博士後期課程)	3	5	-	15	博士(医療科学)	0.60	0.00	-	平成22	同上	
薬学研究科	4	2	-	8				-			
医療薬学専攻(博士課程)	4	2	-	8	博士(薬学)	1.12	1.50	-	平成26	三重県鈴鹿市南玉垣町3500番地3	
大学院全体	-	37	-	83	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

特になし

【令和2年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
5	6	0	8	19	1	3	5	0	7	15	1
(2)	(5)	(0)	(6)	(13)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
6	5	0	8	19	1	6	5	0	8	19	1
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{19} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{15} = \boxed{6.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由（該当なし）

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)		
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (平成30年)	特になし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年度)	特になし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<保健衛生学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①卒業要件単位数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学専攻 127単位（必修科目107単位、選択科目20単位） ・作業療法学専攻 126単位（必修科目106単位、選択科目20単位） 	<p>① 卒業要件単位数</p> <p>理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラムの変更に対応するため、以下のように追加・変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学専攻 130単位（必修科目114単位、選択科目16単位） 必修科目5科目7単位追加し、選択科目2科目4単位削除した。 ・作業療法学専攻 126単位（必修科目110単位、選択科目16単位） 必修科目5科目7単位追加し、3科目3単位削除した。 選択科目2科目4単位削除した。（元） <p>① 卒業要件単位数</p> <p>基礎分野の全学的な教育課程の見直しおよび、作業療法学専攻については、世界作業療法士連盟（WFTO）の認可を取得するため、以下のように変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学専攻 130単位（必修科目117単位、選択科目13単位） 必修科目3単位増及び選択科目3単位減とした。 ・作業療法学専攻 130単位（必修科目116単位、選択科目14単位） 必修科目6単位増及び選択科目2単位減とした。 （実習の単位数増など）（2）
<p>②指定規則変更に伴う実習指導者要件変更への対応</p>	<p>②各々の職能団体等とも連携し、臨床実習指導者講習会修了者は順調に増加している。（2）</p>

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD推進委員会</p> <p>FD推進委員会を設置している。FD推進委員長、副学長（教務・教育改革担当）、各学部学科から1名の代表教員が参画している。【別添1「鈴鹿医療科学大学教育開発（FD推進）委員会」参照】</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>上記委員会が中心となり、年間の活動計画を検討し、その課題に合わせて教員を選出し、活動している。参加状況は月1回程度の委員会にほぼ全員の委員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学独自のFD体制を構築 ・FD講演会等の実施 ・授業評価公開内容および活用方法の検討 ・授業評価高得点賞の表彰 ・FDフォーラムへの参加
--

② 実施状況

a 実施内容

- ①FDハンドブックの作成及び活用方法の検討
- ②FD講演会の開催について
- ③教育研究会の開催について
- ④学生による授業評価高得点賞の表彰者の検討
- ⑤授業評価結果公開内容の検討
- ⑥学外主催のFDフォーラム等への参加
- ⑦学生参加型のFD推進委員会を開催

b 実施方法

- ①FD推進委員会にてFDハンドブックを作成中。完成され次第、全教員へ配布。その後活用方法について検討。
- ②FD・SD講演会開催日を大学の学年歴に掲載し実施。 令和2年9月1日(火)
- ③教育研究会開催日を大学の学年歴に掲載し実施。 令和3年3月19日(金)
- ④授業評価アンケートを前・後期2回実施。その結果、高得点の教員方と学長が面談し、工夫等聞き取りした結果高得点賞を決定している。表彰された教員は前項の教育研究会で講演し、授業の工夫等を全学で共有。
- ⑤授業評価結果をグラフ化し、本学教育システムにて履修学生にフィードバックし、更に大学ホームページ学内専用サイトに公開。今後は記述の部分についても公開を検討中。
- ⑥FDフォーラムに参加した教員は、大学ホームページ掲載用報告書を作成。
- ⑦全学科3年生から1名ずつ学生代表として「教育改善委員」を命じ、FD推進委員会に出席。
令和元年6月6日(木)9時30分～11時40分

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ①FD推進委員会の中にワーキンググループを設置し、FDハンドブックの作成を進めている。
- ②FD講演会 参加人数 179名
学外講師： 京都光華女子大学 阿部一晴教授『ICTが支える学びのかたち』
- ③授業評価結果を受けて改善した内容等を記すため、シラバス項目内に「授業評価結果等の活用・改善案等」を設けている。シラバスは2009年以降WEB公開しているため、履修希望学生や履修後学生も閲覧が可能。
また、本項目のみ印刷し、図書館に配架しているため、いつでも閲覧が可能。
- ④教育研究会にて、学生による授業評価高得点賞の方々の表彰式および、学長による授業評価アンケートの分析結果と受賞者3名による授業工夫の講演を実施予定であったが、コロナウイルス感染拡大の影響により中止。
- ⑤授業評価結果を受けて改善した内容等を記すため、シラバス項目内に「授業評価結果等の活用・改善案等」を設けている。シラバスは2009年以降WEB公開しているため、履修希望学生や履修後学生も閲覧が可能。
また、本項目のみ印刷し、図書館に配架しているため、いつでも閲覧が可能。
- ⑥FDフォーラムへの参加報告書を大学ホームページ学内専用サイトへ公開しているが、2019年度開催予定のFDフォーラムはコロナウイルス感染拡大の影響により中止。
- ⑦学生代表の「教育改善委員」が、FD推進委員会に出席。
(令和元年6月6日(木)9時30分～11時41分)
テーマ：授業評価結果を授業改善に結びつける方法について、カリキュラムが3つのポリシーから見て適切か

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生による授業評価は、前期、後期に行っているが、教員は小テストの際に、授業に対するリフレクションシートの収集も各自積極的に行っている。それらを基に短期・長期的に改善しなければならない点(講義内容や形式)を教員間で認識するために委員会への学生代表も参画し始め、今後に向けた議論の展開をしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

(有) 実施時期：令和元年7月8日～8月6日、令和元年12月13日～令和2年2月4日の2回

b 教員や学生への公開状況、方法等

履修学生には、教務システムにより公開し、大学ホームページ学内専用サイトでも公開している。
学生のアンケートによって改善した点などは、印刷したものを冊子に、図書館で閲覧できるようにしている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神に基づき、確固たる医療人としての職業意識を持ち、豊かな人間性と倫理観を培い、医療・福祉系総合大学という教育環境を活かし、チーム医療の一員として地域医療・在宅医療に貢献できる、専門性の高い資質を持ったリハビリテーションの専門職育成を目的としている。加えて、作業療法学分野の認知度と職業としての魅力の向上も目標としている。2019年度入試では、入学定員80人（理学40人、作業40人）に対し、入学者は（理学45人、作業43人）であった。また、2020年度入試では、入学者は（理学人43人、作業48人）であった。2年連続で定員を充足できており、かつ妥当な基礎学力を持つ学生を確保することが出来ている。上記目的の達成のため、申請時の計画を確実に履行していく次第である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和元年6月15日 第2期中期計画1年目の自己点検・評価を公表済
- ・令和2年6月15日 第2期中期計画2年目の自己点検・評価を公表予定
- ・令和3年6月15日 第2期中期計画3年目の自己点検・評価を公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開済（令和元年6月）
- ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年6月と令和3年6月）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

鈴鹿医療科学大学教育開発(FD推進)委員会規程

(目的)

第一条 鈴鹿医療科学大学教育開発(FD推進)委員会(以下委員会という)は、教育内容・方法等の開発・向上及び教員の教育活動の支援を行うことを目的とする。

(組織)

第二条 委員会は、次の各号に掲げる委員により構成する。

- 一 学長が指名する教員(2名以内)
 - 二 各学科から教員1名
 - 三 大学事務局長
- 2 前項各号の中から、学長が指名した者1名を委員長とする。

(任期)

第三条 委員の任期は2年間とする。ただし再任は妨げない。
2 欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(活動内容)

第四条 委員会は次の各号に掲げる職務を遂行する。

- 一 教員による授業の自己評価又は相互評価、及び学生による授業評価等の実施、結果の分析及び利用に関する事項
- 二 授業改善を目標とした、しくみ等の組織的導入の検討と実施
- 三 FDに関する研究会、講演会及びシンポジウム等の開催
- 四 他大学やFD組織等の行うFD活動への参観・聴講等
- 五 その他FD活動に必要な事項

(委員以外の者の出席)

第五条 委員長が必要と認めるとき、委員以外の者を出席させ、意見又は説明を聞くことができる。

(専門部会)

第六条 委員会の活動を円滑に遂行するため、専門部会を置くことができる。

- 2 委員長が必要と認めるとき、専門部会に委員以外の者を加えることができる。
- 3 専門部会に必要なことは、委員会が別に定める。

(報告等)

第七条 委員長は、委員会の活動内容及び提案内容を学長に報告する。

2 学長が重要事項と判断したものについては、教授会及び大学協議会の議を経て運営協議会に諮るものとする。

(事務)

第八条 委員会の事務は教務課において処理する。

(規程の改廃)

第九条 この規程の改廃は、運営協議会の議を経て行うものとする。

(附則)

この規程は、平成19年11月27日に制定し、平成20年 1月 1日から施行する。

この規程は、平成24年6月5日に一部改正し、施行する。

この規程は、平成25年9月10日に一部改正し、施行する。